

「共存共栄の世の中」実現プロジェクト

共存共栄研究センター 代表 伊藤 豪

プロジェクト1、「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定する

プロジェクト2、「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を数値化し、それが満たされるように国家や地域を運営する

プロジェクト3、「経済や社会の『発展』より『安定』を優先させること」を国際ルールにする

プロジェクト4、世界の全ての人が「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想を持って生きるようにする

プロジェクト5、大和思想を世界に広める

序

私は、世界は、「共存共栄の世の中（全ての人が幸福を感じられる世の中）」であるべきだと考えています。

ですが、今の世界には様々な問題があり、多くの人が、幸福を感じられない状況にあります。

多くの人が、この状況を変えるために、様々な活動を行っていますが、世界は、一向に良くなる兆しがありません。それどころか、増々悪くなっているようすらあります。

世界が、なかなか良くなる原因は、ほとんどの人が、目の前の問題に対処しているだけで、問題の根本を解決しようとしていないからです。

問題の根本が解決されなければ、一つの問題を解決しても、すぐに別の問題が起こります。

また、そもそも、世界の全ての問題に対処することなどできません。

私は、世界の様々な問題の根本には、次の3つの問題があると考えています。

- 「正しい人類の目的」が設定されていない（「人類が進むべき方向性」が定められていない）
- 経済や社会の「安定」より「発展」を優先させている
- 世界のほとんどの人が「正しい思想」を持っていない

私は、これらが解決されなければ、人類は、永遠に、多くの問題を抱え続けることになると思います。

私は、それらを解決し、「共存共栄の世の中（全ての人が幸福を感じられる世の中）」を実現させるためには、次の5つが必要だと考えます。

- 「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定する
- 「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を数値化し、それが満たされるように国家や地域を運営する
- 「経済や社会の『発展』より『安定』を優先させること」を国際ルールにする
- 世界の全ての人が「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想を持って生きるようにする
- 大和思想を世界に広める

これらを実現させれば、今の人類が抱えている全ての問題は解決され、「共存共栄の世の中（全ての人が幸福を感じられる世の中）」が実現すると思います。

逆に、これらを実現させなければ、人類は、永遠に様々な問題を抱えたままだと思います。

そこで、私は、この5つを「共存共栄の世の中」実現プロジェクトとして行ないたいと思います。

これから、このプロジェクトについて、順番に説明していきます。

最後まで読んでいただければ、必ず、私の考えに賛同していただけると思います。

プロジェクト1、「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定する

今の世の中には様々な問題があり、いつまでも解決されないままですが、その一番の原因は、多くの人の利害が対立していることにあります。

「国家」と「国家」、「企業」と「企業」、「宗教」と「宗教」、「民族」と「民族」、「富裕層」と「中間層」と「貧困層」、「個人」と「個人」等の間には、少なからず利害が対立する部分がありますが、その利害の対立が原因で、世の中の様々な問題をいつまでも解決することができないのです。

この問題を解決するためには、「人類は、どうあるべきか」という「人類の目的」を設定する必要があります。

具体的には、「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定する必要があります。

私が考える「共存共栄の世の中」とは、「『人間』『動物』『植物』等の『世の中に存在する全ての生物』が共に生き、共に栄える世の中」「『世の中に存在する全ての生物』の『尊厳』が保たれている世の中（全ての生物が『価値ある存在』『尊い存在』として認められ、大切にされている世の中）」のことです。

人間は誰もが幸福を求めているので、世界は、「全ての人が幸福を感じられる状態」であるべきですが、人間が幸福を感じる上で根本的に重要なことは、「尊重されていること（『価値ある存在』『尊い存在』として認められ、大切にされていること）」です。

「共存共栄の世の中」は、全ての人の「尊厳」が保たれている世の中なので、「共存共栄の世の中」であれば、世界の全ての人が、幸福を感じることができます。

また、人間が生きていくためには、自然や多様な生物と共存する必要があります。

ですから、私は、「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定すべきだと考えるのです。

「人類の目的を設定する」など大げさだと思かもしれませんが、「目的」がなければ、「行なうべきこと」や「優先順位」が導きだせません。

また、「現状に対処する」という発想で解決できるほど、今の人類が抱えている問題は単純ではありません。

「目的を明確にする」「ゴールを設定する」というのは、企業やその他の組織の経営においては、当然のこととして認識されています。

人類の経営においても同じで、まず始めに「人類の目的」を明確にすることが、根本的に重要なのです。

「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定すれば、世界の全ての人の利害は一致します。

全ての人の利害には、少なからず対立する部分がありますが、それぞれの利害が根本から対立することはなくなるのです。

また、「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定すれば、「世界の全ての『社会システム』『経済システム』『教育』『メディア』『個人』等のあり方を『共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けることができる状態』にする必要がある」という論理が成り立つので、「共存共栄の世の中」を破壊している新自由主義、自由貿易、メディアのあり方、個人のあり方、環境破壊等の、今の世の中の様々な問題に、包括的に対処することができます。

また、「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定すれば、世界の全ての人が、共通の目的、共通の価値観を持つことになるので、世界の全ての人を一致団結させ、同じ方向を向かせることができます。

「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定する。

そして、世界の全ての人が、その目的を共有する。

そして、世界の全ての人が協力して、世界の全ての国家、会社、地域社会、家族、個人、また、政治、経済、教育、メディア等のあり方を「『共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること』ができる状態」にする。

今の世界の様々な問題を解決し、「共存共栄の世の中」を実現させるためには、こうする必要があるのです。

このような考えから、私は、「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定することを提案します。

プロジェクト2、「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を数値化し、それが満たされるように国家や地域を運営する

「共存共栄の世の中」とは、「『人間』『動物』『植物』等の『世の中に存在する全ての生物』が共に生き、共に栄える世の中」「『世の中に存在する全ての生物』の『尊厳』が保たれている世の中（全ての生物が『価値ある存在』『尊い存在』として認められ、大切にされている世の中）」のことで。

「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続ける」ためには、この「共存共栄の世の中」を具体的に描き出す必要があります。

私は、「共存共栄の世の中」を具体化するために、次のように考えました。

「共存共栄の世の中」とは、全ての人が幸福を感じられる世の中である。

幸福とは、人によって違うものだが、幸福を感じるためには、いくつかの条件が必要になる。

例えば、戦争があったり、犯罪が多かったり、貧しかったりすると幸福を感じるのは難しい。

つまり、そのような「社会的条件」の下では、人間は幸福を感じるのが難しい。

このようなことを突き詰めて考えると、人間が幸福を感じるためには、いくつかの「社会的条件」が必要であることが分かる。

私は、このように考え、以下の項目を「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」として導きだしました。

[1]

- 犯罪の発生率が低い
- 自殺率が低い
- 病死、事故死の発生率が低い
- 交通事故の発生率が低い
- 失業率が低い
- 経済格差が小さい

[2]

○衣、食、住等の、生活に必要なものが行き渡っている

○子供から老人まで、全ての人が、健康に、安全に暮らせる環境である（食や水の安全が保たれている、健康を維持できる住環境である、育児に適した環境である、児童虐待がない、福祉が充実している、環境汚染がない等）

○教育が行き届いている（識字率が高い、待機児童がいない、正しい教育、正しい道德教育が行なわれている等）

※これらは、判断する人の「価値観」によって、必要とする度合いが変わる。

私は、人間が幸福になるためには、社会が、これらの条件を満たしている必要があると考えます。

ですから、私は、この「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を数値化し、それが満たされるように、国家や地域を運営するべきだと考えます。

この「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」は（特に1は）、数値化が可能なので、これを数値化すれば、世界のどの国、どの地域が、どの程度「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を満たしているかが、数値で分かるようになります。

つまり、世界の全ての国、全ての地域を、数値で評価できるようになります。

また、「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を数値化し、それが満たされるように、国家や地域を運営することを国際ルールにすれば、それに反する全ての問題に対処できます。

つまり、新自由主義、自由貿易、金融経済の膨張、水道事業の民営化、種子法の廃止等に対処することができます。

また、「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」は、人権と言えるので、その人権を主張するというかたちで、それを損なうあらゆる政策に対処できるようになります。

また、これは、誰にでも理解できるシンプルなものなので、政治に詳しくない一般の人でも、この数値を見れば、自分が住んでいる国や地域が、どの程度「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を満たしているかが分かります。

そして、それが分かるので、自分が住んでいる国や地域を、「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を満たしている状態にするための、的確な活動ができるようになります。

また、一般の人は、普段は自分の仕事が忙しく、政治や社会のことを考える時間がありませんが、「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」の数値を見ることは、誰にでもできます。

つまり、「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を数値化し、それが満たされるように国家や地域を運営する」というのは、誰でも参加できる社会活動なのです。

ですから、これを国際ルールにすれば、多くの人に、政治や社会に関心を持たせ、多くの人を、その活

動に参加させることができるようになります。

また、常に、『幸福』になるために必要な『社会の条件』を数値で見れば、国民の生活を、間違った政策から守ることができます。

基本的に、国民は、政治に関しては素人なので、多くの人にとって、政治家の適否を見分けることや、政策の有効性を理解することは、非常に困難です。

ですから、多くの場合、それらを十分に見極められないまま、政治家を選び、政治を任せることになります。

ですが、国家は、少なからず他の国家と競争関係にあるので、政治家は、往々にして、「国民の生活の安定」より「経済や社会の発展」を優先させてしまいます。つまり、国民の生活は、犠牲にされてしまいます。

ですが、多くの国民が、常に、『幸福』になるために必要な『社会の条件』の数値を見て、それが維持されるように監視していれば、国民の生活が犠牲になることを最小限に抑えることができます。

また、世界には、ジャングルの奥地で暮らしている先住民や、アフリカで原始的な生活をしている部族民等、発展することをあまり望んでいない人たちがいますが、この『幸福』になるために必要な『社会の条件』は、発展していない社会にも当てはめることができます。

ですから、『幸福』になるために必要な『社会の条件』を数値化し、それが満たされるように、国家や地域を運営することを国際ルールにすれば、「発展している、していない」にかかわらず、全ての国が、『幸福』になるために必要な『社会の条件』を満たすことができるようになります。つまり、全ての国において、幸福を感じられるようになります。

私は、これらの理由から、『幸福になるために必要な社会の条件』を数値化し、それが満たされるように、国家や地域を運営すること」を提案します。

私は、『幸福になるために必要な社会の条件』が満たされることを求める」のは人権だと思います。これこそが人権なのではないでしょうか。

世界の全ての国民は、この人権が守られるように、積極的に働きかけるべきだと思います。

プロジェクト3、「経済や社会の『発展』より『安定』を優先させること」を国際ルールにする

私は、「共存共栄の世の中」を実現させるためには、「経済や社会の『発展』より『安定』を優先させること」を国際ルールにする必要があると考えています。

国連では「持続可能な開発」をうたっていますが、具体的な取り組みの中には、矛盾する部分があります。

「持続可能な開発」という題目はいいのですが、具体的な取り組みの中には、経済や社会を「発展」させ

ようとするものと、「安定」させようとするものがあります。

ですが、「発展」と「安定」は両立できない場合があります。特に今の世の中においては、それらは両立できていません。

自由経済、自由貿易は広がり、金融経済は膨らんでいますが、貧困が増え、格差が広がり、犯罪はなくなり、環境が破壊され続けているのが今の世の中です。

「発展」を優先させると「安定」は犠牲になります。逆に「安定」を優先させると「発展」は犠牲になるのです。

それでは、どちらを優先させるべきなのでしょう？

私は、「発展」より「安定」を優先させるべきだと考えています。

つまり、先ほど説明した『幸福』になるために必要な『社会の条件』を維持できる範囲内で発展させるべきだと考えています。

国際政治においては、常に、どれだけ発展したかが語られますが、その発展が、多くの人の犠牲の上に成り立っているようではいけません。

それは、「人権」や「人間の尊厳」を無視する行為ですし、「世界人権宣言」を無視する行為でもあります。

経済が発展すれば幸福になれると言う人がいますが、彼らは何を根拠にそう言うのでしょうか？

世界第一位の経済大国のアメリカの犯罪発生率は、日本の数倍と言われていて、第二位の中国は正確な数字は出ていないようですが、日本より多いことは間違いありません。

また、日本においても、高度経済成長期には、公害、家庭内暴力、校内暴力、暴走族等、様々な社会問題があり、それらの犠牲になった人の数は計り知れません。

人間を含む、全ての生物は、急激な環境の変化には対応できません。

ですから、「安定」を無視して「発展」させると、その負荷が社会の様々な領域に及び、多くの人がその被害を受けることになるのです。

また、世界には、ジャングルの奥地で、裸同然の姿で、物質的には全く豊かとは言えない生活を送っている先住民がありますが、彼らが、『物質的に豊かでない』という理由で『不幸』を感じている」ということはありません。

それどころか、彼らは、「経済格差」や『物質的に豊かになりたい』という欲求等に苦しむことなく生活しています。

彼らは、「物質的な豊かさ」から生まれるストレスを、全く感じずに生活しているのです。

このことから、「経済的発展」イコール「幸福」ではないことが分かるのです。

国家の目的の本質は、国家を構成する全ての人の衣食住の確保や、治安の維持といった、生活の安定の事です。

「国家を構成する全ての人が生きられること」が根本的に重要であり、それを土台にして発展させるのが、国家のあるべき姿なのです。

地球規模で、経済や社会の「安定」より「発展」を優先させると、様々な問題が起こります。

経済や社会の「発展」を優先させると、経済競争が激化するので、経営者は、従業員を少しでも安い賃金で働かせようとしたり、一人でも少ない人数で業務をさせようとしたりするようになるので、不当に扱われる人が出やすくなります。

また、経済競争が激化するため、経営者には、経費を抑えようとする心理が強くなるようになります。そのため、有害物やゴミの不法投棄が起こりやすくなり、環境汚染が増えてしまいます。

また、森林が多い低開発国に、「安定」より「発展」を優先させると、必然的に、過度の森林伐採が行なわれてしまいます。

また、経済の世界には、常に競争原理が働いているので、社会を「安定」させる働きかけが十分に行なわれていなかったら、つまり「発展」より「安定」を優先させていなかったら、社会は、永遠に「安定」に至りません。

また、「発展」を優先させる世の中においては、「売れているもの」や「売れそうなもの」ばかりに投資されるので、多くの人は、資金や収入を得る必要性から、投資家や企業の意向に添ったものばかりをつくるようになり、自分の感性に従った創造的なものはつくらなくなります。

その結果、「利益にはつながらないが、人類にとっては価値があるもの」「商業的価値は低いが、文化的、芸術的価値は高いもの」等は誰もつくらなくなり、文化が破壊されてしまいます。

国連では、「持続可能な開発」というように、あくまでも「開発」すること、「発展」することを押し進めています。世界には、経済や社会の「発展」をあまり望んでいない人もたくさんいます。

先住民、少数民族、先進国の中にも「必要以上に発展する必要はない」と考えている人はたくさんいます。

また、「発展」を望んでいても、望んでいる「発展の度合い」「発展する速度の度合い」は、人それぞれです。

「世界全体で『発展』し続ける」という方針は、そのような人たちの考えや生き方を尊重していないと言えます。

私は、「経済や社会を発展させる必要は、全くない」と言っているわけではありません。

『幸福』になるために必要な『社会の条件』を維持できる範囲内で、それらを実行させるべきだ」と言っているのです。

特に、現代は、世界的には、すでに需要量より供給量の方が多くなったと言われていています。

このような時代においては、経済や社会を「発展」させることより、それらを「安定」させることを優先させるべきなのです。

『発展』より『安定』を優先させる」という方向転換をしなければ、今の人類が抱えている様々な問題を解決し、「共存共栄の世の中」を実現させることはできません。

これらの考えから、私は、『経済や社会の発展より安定を優先させること』を国際ルールにすることを提案します。

プロジェクト4、世界の全ての人々が「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想を持って生きようにする

ユネスコの第37回総会（2013年）で決定された「中期戦略（2014～2021年）：37C/4」には、戦略目標2：学習者の創造性及びグローバル・シチズン（世界市民）としての責任の強化
戦略目標6：包摂的社会開発の支援。文化の関係改善のための文化間対話の促進及び倫理原則の推進があります。

彼らが言う、「グローバル・シチズン（世界市民）としての責任」「倫理原則」とは、具体的にどのようなものなのでしょうか？

それが、今の世界の様々な問題を解決し、「共存共栄の世の中」を実現させる上で、不可欠であることは間違いありません。

私は、そのことについて、少し別の角度から考えています。私は、次のように考えます。

人間社会を構成する全てのものは、人間によって作り出される。また、人間社会は、人間が運営するものである。

だから、世界は「人間のあり方」次第で、「いい状態」にも「悪い状態」にもなる。

また、人間は、自分が持っている思想に基づいた行動をする。（ここで言う思想とは、「その人の『生き方』や『行動』を決定付けている考え」「その人が『生き方』や『行動』を決定するときに『判断の基準』にしている考え」のことです）

だから、世界の全ての人々が「正しい思想」を持っていれば、世界の全ての人々が「正しい行動」をするので、その結果、世界は「正しい状態」になる。

逆に、世界の全ての人々が「悪い思想」を持っていれば、世界の全ての人々が「悪い行動」をするので、その結果、世界は「悪い状態」になる。

このことを踏まえて考えると、世界を「共存共栄の世の中」にするためには、世界の全ての人々が、「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想を持って生きる必要があることが分かる。

世界の全ての人々が、「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想を持っていれば、世界の全ての

人が、そのような生き方をする。

そして、世界の全ての人が、そのような生き方をすれば、「共存共栄の世の中」が実現し、維持される。

このような考えから、私は、今の世界の様々な問題を解決し、「共存共栄の世の中」を実現させるためには、世界の全ての人が「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想を持つようにする必要があると考えます。

「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想の対極にあるのは、「自分さえ良ければいい」「自分達さえ良ければいい」という思想（考え）です。

世界の多くの人が、そのような思想を持っていたら、「共存共栄の世の中」は、永遠に訪れません。

そこで、私は、「世界の全ての人が『共存共栄の世の中を維持して生きる』という思想を持って生きようようにすること」を提案したいと思います。

プロジェクト5、大和思想を世界に広める

それでは、この「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想とは、具体的にどのような思想なのでしょう？

私は、それを考え、大和思想（やまとしろう）という思想を考えました。

大和思想の簡単な説明をします。

大和思想とは、一言で言うと、「生きとし生ける全てのものを『価値ある存在』『尊い存在』として認め、大切に生きていく」という思想です。

大和思想とは、「『世の中の全ての人が、自ら率先して、普段自分が関わっている全体をまとめること』によって、『共存共栄の世の中』を実現させ、世の中の全ての人と共に『幸福』になる」という思想です。

世の中の全ての人が、自ら率先して、普段自分が関わっている「全体（家族、地域社会、友人の集まり、学校、会社、国家、世界等の、普段自分が関わっている集団、組織）」をまとめる（「共存共栄の世の中を維持している状態」にする）。

そうすることによって、「共存共栄の世の中」が実現し、維持される。

そして、「共存共栄の世の中」が実現し、維持されることによって、世の中の全ての人が幸福になる。

これが、大和思想の理論です。

また、大和思想の価値観は次のようなものです。

「直接的、間接的にかかわらず、『共存共栄の世の中（世の中の調和）』を維持、つくりだす物事」が「価値ある物事」です。

そして、「直接的、間接的にかかわらず、『共存共栄の世の中（世の中の調和）』を乱す物事」が「価値のない物事」です。

また、「直接的、間接的にかかわらず、『共存共栄の世の中（世の中の調和）』を維持、つくりだす行為」が「いいこと（正しいこと）」です。

そして、「直接的、間接的にかかわらず、『共存共栄の世の中（世の中の調和）』を乱す行為」が「悪いこと（間違っていること）」です。

これを判断の基準にして、「いいこと（正しいこと）」だけを行なって生きることが重要ということになります。

※これらの具体的なことについては、大和思想の一章に書いてあります。

また、大和思想における「人間関係」のあり方（人間関係のルール）は次の6つです。

- 相手を「尊重」する
- 常に「気遣い」をする
- 「年長者」は「年少者」をいたわり、導く 「年少者」は「年長者」に素直に従う
- 男女は互いに「思いやり」を持って接する
- 「親」は「子」をしっかり育てる 「子」は「親」をしっかり養う
- 「老人」を敬う

※これらの必要性や具体的なことについては、大和思想の六章に書いてあります。

また、そのような生き方をするために必要となる行動、資質等は次のようなものです。

- 常に、あらゆる「恩恵」に心から「感謝」する
- 常に、自分の「運命」を受け入れる
- 常に、「共存共栄の世の中を維持、つくりだす物事」と「共存共栄の世の中を乱す物事」を見分ける
- 論理的思考能力

- 優先順位が一番を「世の中全体」にする（自己犠牲の精神を持つ）
- 謙譲の精神
- 「優しさ」と「厳しさ」
- 「勇気」と「精神的強さ」
- 平常心
- 向上心
- 真剣さ
- 健康

※これらの必要性や具体的なことについては、大和思想の五章に書いてあります。

簡単な説明ですが、これが大和思想です。

思想と言うと宗教のように思うかもしれませんが、思想イコール宗教ではありません。

私が言う思想とは、「その人の『生き方』や『行動』を決定付けている考え」「その人が『生き方』や『行動』を決定するときに『判断の基準』にしている考え」のことです。英語では、アイデンティティに近い言葉だと思います。

全ての人には、意識していなくても何らかの思想を持っています。その思想を大和思想のような思想（必ずしも大和思想である必要はない）にすることが、「共存共栄の世の中」を実現させるためには必要なのです。

大和思想の内容は、特別なものではありません。

これらは、ユネスコが推進する「グローバル・シチズン（世界市民）としての責任」の根底にある考えであり、国連が進める「持続可能な開発のための教育」の根本に求められる考えでもあります。

ユネスコが言っている「グローバル・シチズン（世界市民）としての責任」「倫理原則」を具体的にすると、このような思想になると思います

このことから、大和思想は、今の世界に求められている思想だと言っても過言ではないと思います。

大和思想は、「日本の伝統的な思想」だと言えますが、その日本人が作りだした日本の社会は、世界有数の発展した国であり、かつ、世界有数の安全な国でもあります。

江戸時代に日本を訪れた外国人は、「日本の庶民は裕福とは言えないが、不幸には見えない」「みんな礼儀正しいし、西洋のどの国よりも安全だ」、外国人女性が一人で旅行をしたときも、「一度も危険を感じなかった」等と言っています。

また、現在においても、世界で最も安全な国の一つです。

このような社会をつくった日本人の根底にある思想を取り入れることなく、世界を安定させることな

できません。

「安全」と「発展」を両立させることができる日本人の思想を取り入れることなく、「安全」で「発展」した世界を実現させることはできないのです。

つまり、大和思想を学ぶことなく、「安全」で「発展」した世界を実現させることはできないのです。

今の世界の政治、経済、学問、医療、農業等における主流の考えは、ほとんどが「西洋的な考え」に根ざしたものです。

「西洋的な考え」は、「木（部分）を見る西洋人、森（全体）を見る東洋人」という言葉が象徴するように、部分にフォーカスする傾向があります。逆に、「東洋的な考え」は、全体にフォーカスする傾向があります。

西洋的発想では、「人」を「独立した個人」と見るので、必然的に「自由（個人に立脚した概念）」や「人権（個人に立脚した概念）」を重視するようになります。

東洋的発想では、「人」を「社会を構成する一員（社会の一部）」と見るので、必然的に「責任」や「義務」を重視するようになります。

「自由」「人権」「責任」「義務」は、いずれも重要なものですが、今の世の中の主流の考えは「個人主義的発想（西洋的発想）」に偏っています。

そして、この「個人主義的発想」に偏っていることが原因で、様々な問題が起きています。

多くの人が、「自由」や「権利」を強く主張したら、当然、多くの個人と個人、集団と集団がぶつかることとなります。そして、ぶつかった後に対処することとなります。

ですが、「共存共栄の世の中（全ての人が幸福を感じられる世の中）」を実現させるためには、ぶつからないようにすることが必要です。

問題が起きてから、それに対処するのではなく、問題が起きないようにすることが必要なのです。

問題が起きないようにするためには、人を「独立した個人」と見るのではなく「社会を構成する一員」と見、「個人」より「社会全体」を優先させるという東洋的発想が必要となります。

人間は「社会を構成する一員」なのだから、「個人の自由」より「社会の秩序を維持すること」を優先させなければなりません。

つまり、「自由」や「権利」を主張することより、「社会を構成する一員」としての「責任」や「義務」を果たすことを優先させなければならないのです。このような発想が必要になるのです。

大和思想は、優先順位が一番を「世の中全体」にしています。

また、人間を「自然を含む、世の中全体を構成する一部分」と捉えています。

そして、「自ら率先して、普段自分が関わっている『全体（家族、地域社会、友人の集まり、学校、会社、国家、世界等の、普段自分が関わっている集団、組織）』をまとめること」を行動原理にしています。

今の世界の様々な問題を解決し、「共存共栄の世の中」を実現させるためには、世界の全ての人が、このような思想を持つ必要があるのです。

私は、これらのことから、大和思想を世界に広めることは、「共存共栄の世の中」を実現させるための、有効な一手だと確信しています。

そこで、私は、「大和思想を世界に広めること」を提案したいと思います。

まとめ

今の世界には様々な問題があります。そして、それに対して様々な活動をしている人がいます。

ですが、実際に様々な問題を解決し、「共存共栄の世の中」を実現させるためには、そのための的確なポイントを見抜くことと、確実にそれを正すことが必要です。

私は、それを考え、「共存共栄の世の中」実現プロジェクトを立ち上げ、次の5つを行なうことを決めました。

プロジェクト1、「共存共栄の世の中を実現させ、維持し続けること」を「人類の目的」に設定する

プロジェクト2、「『幸福』になるために必要な『社会の条件』」を数値化し、それが満たされるように国家や地域を運営する

プロジェクト3、「経済や社会の『発展』より『安定』を優先させること」を国際ルールにする

プロジェクト4、世界の全ての人が「共存共栄の世の中を維持して生きる」という思想を持って生きようにする

プロジェクト5、大和思想を世界に広める

世界を変えるため、「共存共栄の世の中」を実現させるためには、これらが必要不可欠です。

これらが確実に行なわれれば、世界は、大きく変わります。

逆に、これらが行なわれなければ、人類は、永遠に、多くの問題を抱え続けることになるのです。

私は、一人でも多くの方が、このプロジェクトに参加することを期待します。

多くの方がこのプロジェクトに参加し、協力して取り組めば、必ず「共存共栄の世の中」を実現させることができるのです。

共存共栄研究センター <http://kyozon.jp>

大和思想一章～六章 <http://kyozon.jp/yamatoshiso.html>